

# 京都精華短期大学

男 女  
共 学

At the same time English has now become a universal language, whether we like it or not; so if we know English, we can communicate not only with British and American people, but also with peoples of other countries.

What is important in this age of technology is not competition but co-operation among nations; And I believe that real co-operation for common aims comes through the understanding or recognition of cultural differences, and not from forcing one culture upon another.

Therefore, my purpose in studying English is not the mere mastery of the language but the acquisition of "the tool" with which to co-operate with peoples of the world.

..... from a composition "Why do I study English?"

by Yutaka Kawashima (second year)  
*Yutaka Kawashima*

すでにこの大学を母校とする人が414名、そしていま、ここで学んでいる者が760名。これだけの若者が、この三年のあいだに、全国八百数十の大学のなかから、この大学を、たった一つの自分の大学として選択し、再び帰り来ることのない青春の二年を、この大学社会のなかで過すことを決断したのである。それはまことに重大な選択である。果して、この大学を選んだことに悔いはなかったか。

日本のほとんどすべての大学の学生、とりわけ大きな有名大学の学生たちは、入学した年の前期のおわりには、もう大学生活のつまらなさを訴えはじめる。それは自分が大学社会から疎外されていること、友人のいないこと、そして講義がまったくつまらないこと、などがその主たる理由のようだが、この大学においてはどうか。

われわれの大学は古い有名大学のように、立派な建物があって、すべての施設がととのっているわけではない。またこの大学も人間の社会のもつ矛盾に悩む。とりわけ大学社会は、教員・職員・学生という三つの身分から成る身分制社会だから、その身分制の生み出す毒素を、完全に除去することに成功しているわけではない。

しかし、われわれは創立以来三年余、この矛盾を克服するために懸命の努力を積み重ねてきたことは事実である。人はドン・キホーテだといって嘲うかも知れない。だが、われわれは大学社会における人間的平等・機会均等の確立のために、可能な最大のことをしてきた。その一つの現われは、ここには学生の使用することのできない場所は、一つも存在していないということである。会議室然り、学長室然り。そして食堂では学生と教職員とは、同じように順番を待ち、同じようにセルフ・サービスをし、同じように皿を洗うのである。

この平等によって大学社会の秩序は壊れてはいない。むしろ厳格に保たれているのである。われわれはこの三年余、また、お互いの間に、暴力と盗難がおきた事実を知らない。

こうしてこの大学社会では、言論および表現の自由のすべてが保証されている。掲示もビラも何の制限・干渉も受けることなくこれを行うことができる。この自由には、しかしそれと同じだけの責任がともなう。不当にもいつわりをもって他人の人格を社会的に傷つ

けようとする言動のごときは、絶対に許されない。それは徹底して糾弾をうけなければならない。もしそれが放置されるならば、ヒューマニズムはこの大学において崩壊するからである。ヒューマニズムとは、まさに人間の人格的尊厳の確認の上においてこそ成立するものである。

このヒューマニズムの精神を、われわれは自由・自治の精神、あるいは友愛の精神といったことばをもって表現してきた。そしてもしこの精神がわれわれの大学から失なわれるならば、たとえどんなに建物や施設がととのったとしても、それは味を失った塩のように、無意味であると考えてきた。精神的に崩壊した砂漠のような大学のごとき、どこに存在の意義があるか。

われわれの大学は、いま、この精神の、どういう状況にあるのか。それは第三者の批判に俟たなければならないが、しかし、この精神は不断の危機に曝されながらも、なお、この大学において、生きていていると思っている。そしてそれが学生生活にうるおいをあたえ、教職員の誰彼が失意の状態におちいったときにも、なお、彼を精神的に再起させる力として作用していることを私は知っている。

それはさる土曜の午後だったが、私はある大学を訪ねた。そこはすでに死んだように静かであった。事務局員らしい老人が独り、校庭を歩いていたただけだったが、その日の夕方、私はこの大学へまた帰ってみると、どうだ、土曜の夕方だというのに、まだ学生がいっぱいいるではないか。イングリッシュ・ハウスでは議論に花が咲いているようだったし、美術科のアトリエには灯がともっていた。むろん若い先生たちも、事務局員もいた。みんなこの大学が好きなのである。この感情を大切にまもるにはどうしたらいいか。

学長 / 岡本清一

## 英語英文科

セクレタリー（秘書）コース

貿易英語コース

ガイドコース

英米文学コース

国際文化コース

専攻科

## 美術科

絵画コース

デザインコース

●ヴィジュアル・デザインクラス

●クリエイティヴ・デザインクラス

染織コース

専攻科

# 京都精華短期大学

京都市左京区岩倉木野町137

Tel. 075-791-6131 (代) 〒606

交通—京都駅から京都バスにて30分 京福電鉄出町柳から15分  
木野駅で下車 徒歩5分

